

# 2009年(平成21年)6月期(第13期) 本決算説明会資料

**株式会社 ディーバ**  
(証券コード3836 ヘラクレス)

2009年(平成21年)8月19日

**DIVA®**

- I. 2009年(平成21年)6月期 本決算概要
  - II. ディーバの競争優位性
  - III. 成長戦略
- 参考資料

\* 資料内の数値は表示単位未満を四捨五入で表示し、百分率は原データから算出しております。

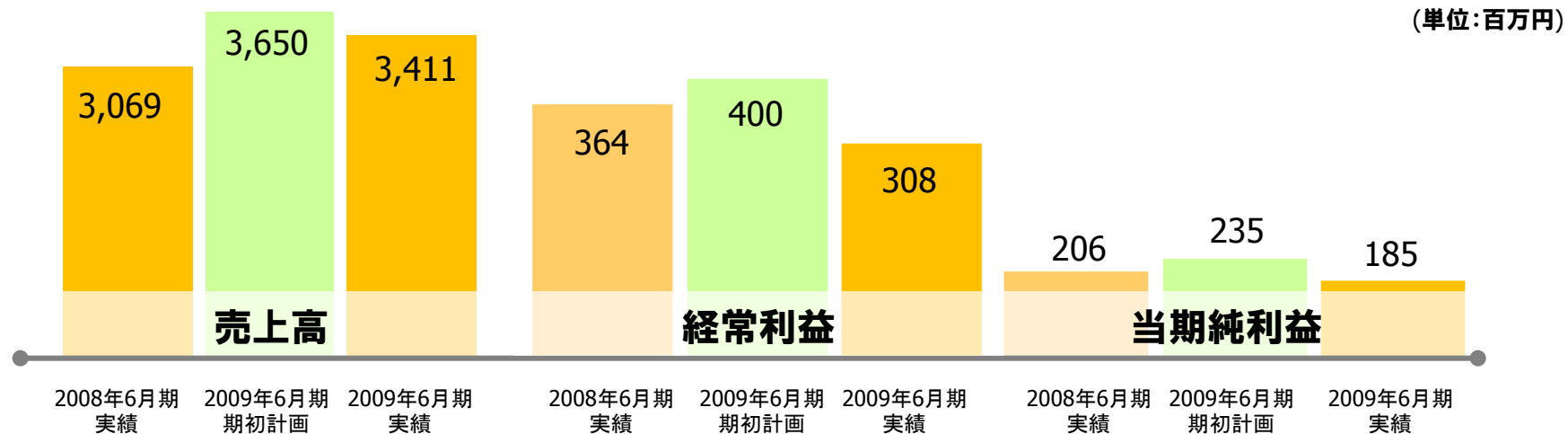
当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しにのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製または転送などを行われぬようお願いいたします。

- I. **2009年(平成21年)6月期 本決算概要**
- II. ディーバの競争優位性
- III. 成長戦略

# 2009年(平成21年)6月期 本決算概要

□ 市況悪化のなか前期比増収を達成するも、利益率悪化し減益

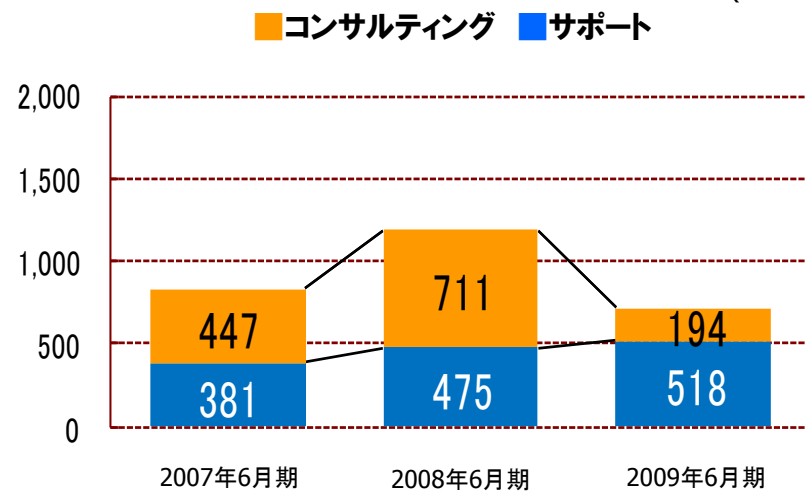
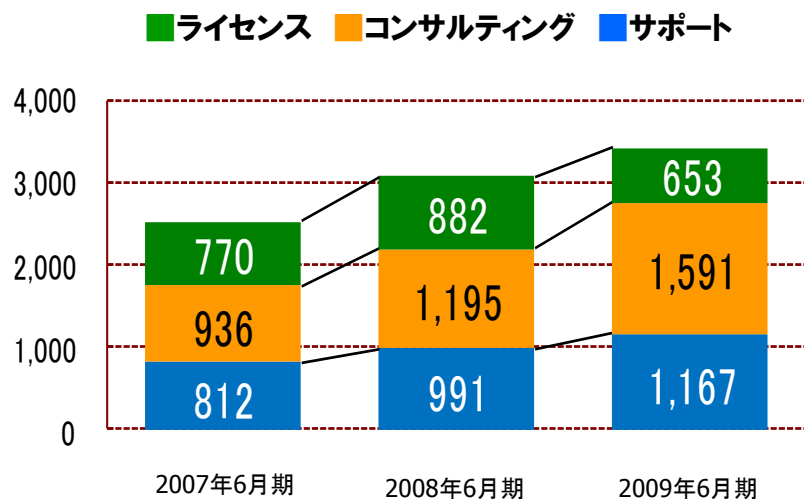


(単位:百万円)	2008年6月期		2009年6月期		2009年6月期		前期増減	前期比
	実績	(%)	期初計画	(%)	実績	(%)		
売上高	3,069	(100.0)	3,650	(100.0)	3,411	(100.0)	342	11.2%
売上原価	1,124	(36.6)	-	-	1,548	(45.4)	424	37.7%
売上総利益	1,944	(63.4)	-	-	1,863	(54.6)	△81	△4.2%
販管費及び一般管理費	1,575	(51.3)	-	-	1,544	(45.3)	△31	△2.0%
営業利益	369	(12.0)	410	(11.2)	319	(9.4)	△50	△13.6%
経常利益	364	(11.9)	400	(11.0)	308	(9.0)	△56	△15.3%
当期純利益	206	(6.7)	235	(6.4)	185	(5.4)	△21	△10.2%

# 事業セグメント別売上高、受注残高

- 新規受注の減速により、ライセンス売上が減少
- 大型プロジェクトの検収等でコンサルティング売上伸長、受注残高減少

(単位:百万円)



売上高

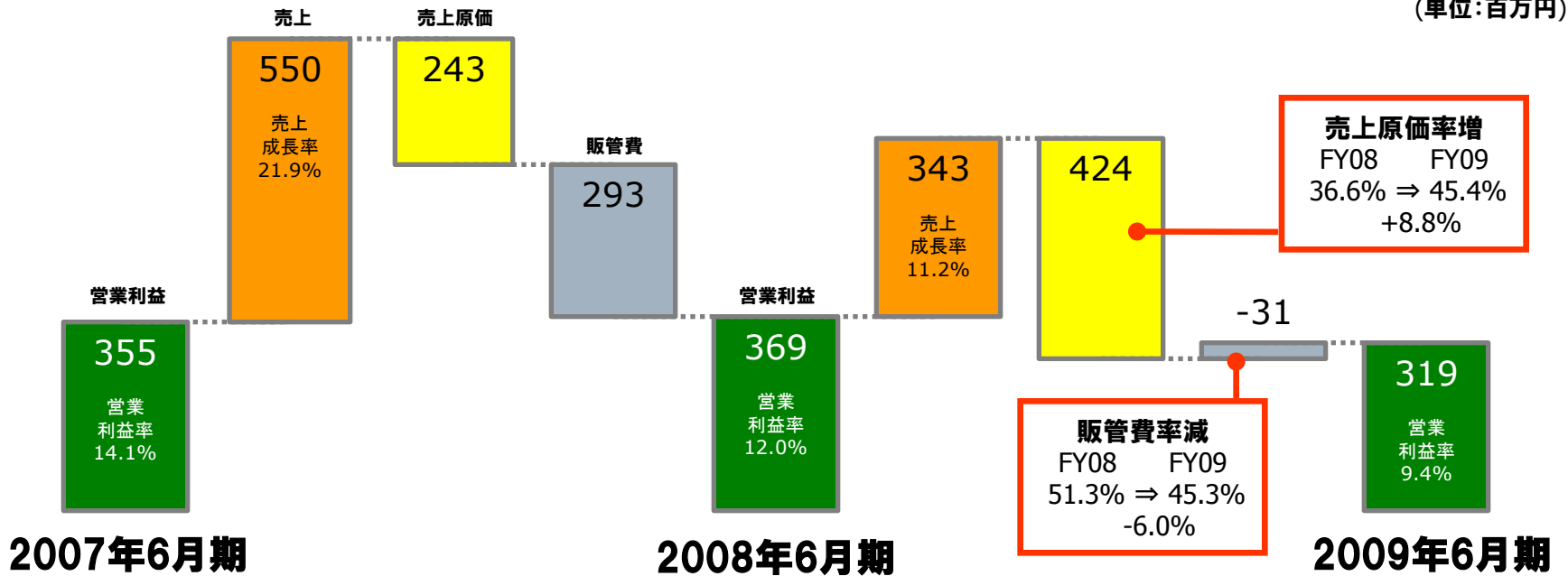
(単位:百万円)	2007年 6月期	2008年 6月期	2009年 6月期	前期比 (2008vs2009)
ライセンス	770	882	653	△26.0%
コンサルティング	936	1,195	1,591	33.0%
サポート	812	991	1,167	17.8%
合計	2,518	3,068	3,411	11.2%

受注残高

(単位:百万円)	2007年 6月期	2008年 6月期	2009年 6月期	前期比 (2008vs2009)
ライセンス	-	-	-	-
コンサルティング	447	711	194	△72.7%
サポート	381	475	518	9.0%
合計	828	1,186	712	△40.0%

# 営業利益の増減要因

(単位:百万円)



2008年6月期

- 内部統制需要  
⇒新規ライセンス売上好調
- 大規模プロジェクトの受注

2009年6月期

- 売上原価率増
  - 開発体制の増強
  - コンサルティング売上比率増
  - 価格競争激化
- 販管費率減
  - コスト削減施策の効果

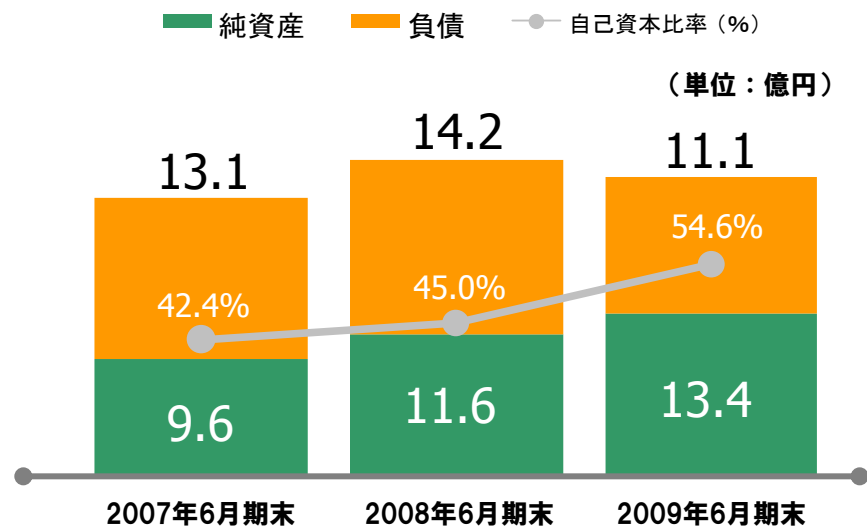
# 財務・キャッシュフローの状況

## 財務状況

2009年6月期末  
※( )内は2008年6月期末比



## 純資産・負債・自己資本比率



## キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2008年 6月期	2009年 6月期
営業CF	202	325
投資CF	(24)	(172)
財務CF	(124)	(157)
フリーCF	178	153

## 主な増減要因

• 税引前当期純利益	308 百万円
• たな卸資産の減少	101 百万円
• 減価償却費	104 百万円
• 法人税等の支払	△178 百万円

• 有形固定資産の取得による支出	△106 百万円
• 無形固定資産の取得による支出	△ 43 百万円

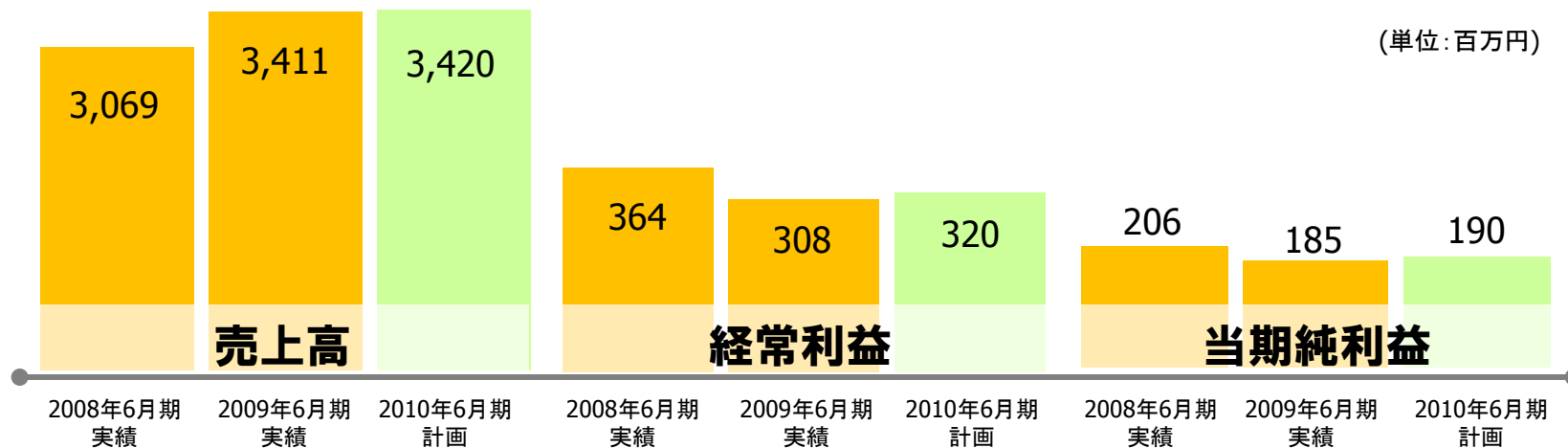
• 長期借入金の返済及び社債の償還	△ 75 百万円
• ファイナンス・リース債務の返済	△ 51 百万円
• 配当金支払	△ 21 百万円

- ◆ **市況悪化でライセンス販売減もコンサルティング売上伸長で増収確保**
  - ⇒企業のIT投資見直しの影響で新規受注減速
  - ⇒経営情報活用ソリューション需要を掘り起こしコンサルティングサービス増
  - ⇒プロジェクトマネジメント品質の向上によるコスト管理、検収率改善
  
- ◆ **コスト増加要因が売上成長を上回り、営業利益、当期純利益ともに減**
  - ⇒新商品開発体制の増強による原価増、価格競争激化で収益性低下
  - ⇒事業計画のPDCAサイクルを短縮、財務体質は安全性・流動性を確保



# 2010年(平成22年)6月期 通期計画

- 売上高:34.2億円 (前年比 0.3%増)
- 経常利益:3.2億円 (前年比 3.8%増)



(単位:百万円)	2008年6月期		2009年6月期		2010年6月期		前期増減	前期比
	実績	(%)	実績	(%)	計画	(%)		
売上高	3,069	(100.0)	3,411	(100.0)	3,420	(100.0)	9	0.3%
売上原価	1,124	(36.6)	1,548	(45.4)	-	-	-	-
売上総利益	1,944	(63.4)	1,863	(54.6)	-	-	-	-
販管費及び一般管理費	1,575	(51.3)	1,544	(45.3)	-	-	-	-
営業利益	369	(12.0)	319	(9.4)	330	(9.6)	11	3.4%
経常利益	364	(11.9)	308	(9.0)	320	(9.4)	12	3.8%
当期純利益	206	(6.7)	185	(5.4)	190	(5.6)	5	2.9%

- I. 2009年(平成21年)6月期 本決算概要
- II. **ディーバの競争優位性**
- III. 成長戦略

# 競争優位性とお客様へのメリット

- **連結会計に特化したソリューション提供を通じ、グローバルグループ企業の連結経営をサポート**
  - **連結会計業務の先進ノウハウを凝縮した製品群、会計制度改正への継続的対応**
  - **業務、システム知識をもったコンサルティングサービスで大規模プロジェクト導入からパッケージ導入まで対応**
  - **お客様の連結会計業務を支える、「顔の見える」サポートサービス**



**設立10年で連結会計のリーディングカンパニーに  
580を超えるグループ企業からなるお客様ポートフォリオを実現**

# 成長の軌跡



連結会計  
ニーズの進化

自動化

効率化

高度化

国際化

ディーバの  
アクション

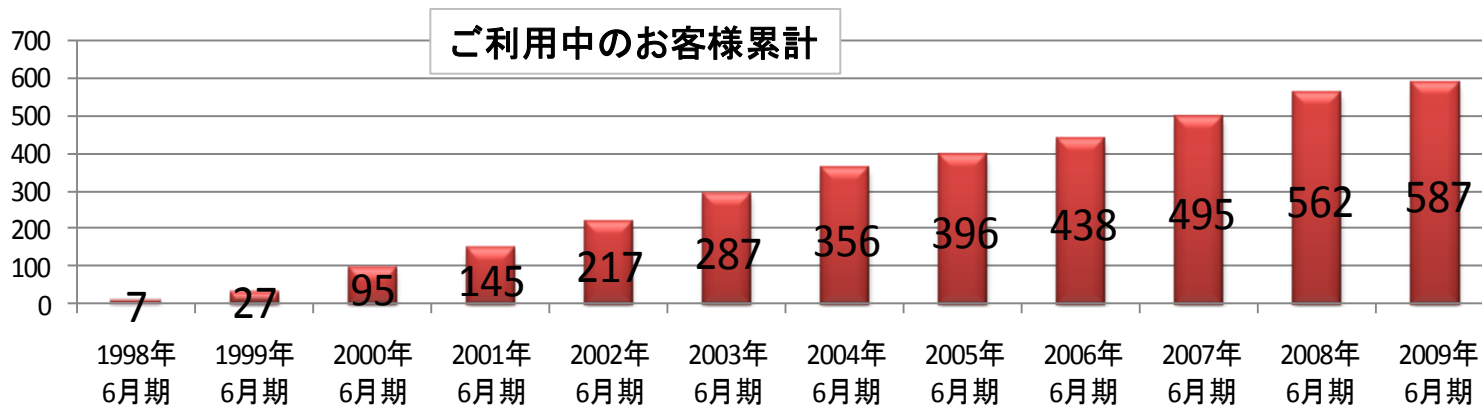
1997年連結決算処理の飛躍的高速化を実現したDivaSystemを開発

1999年、WEBベースグループ情報収集システムを開発

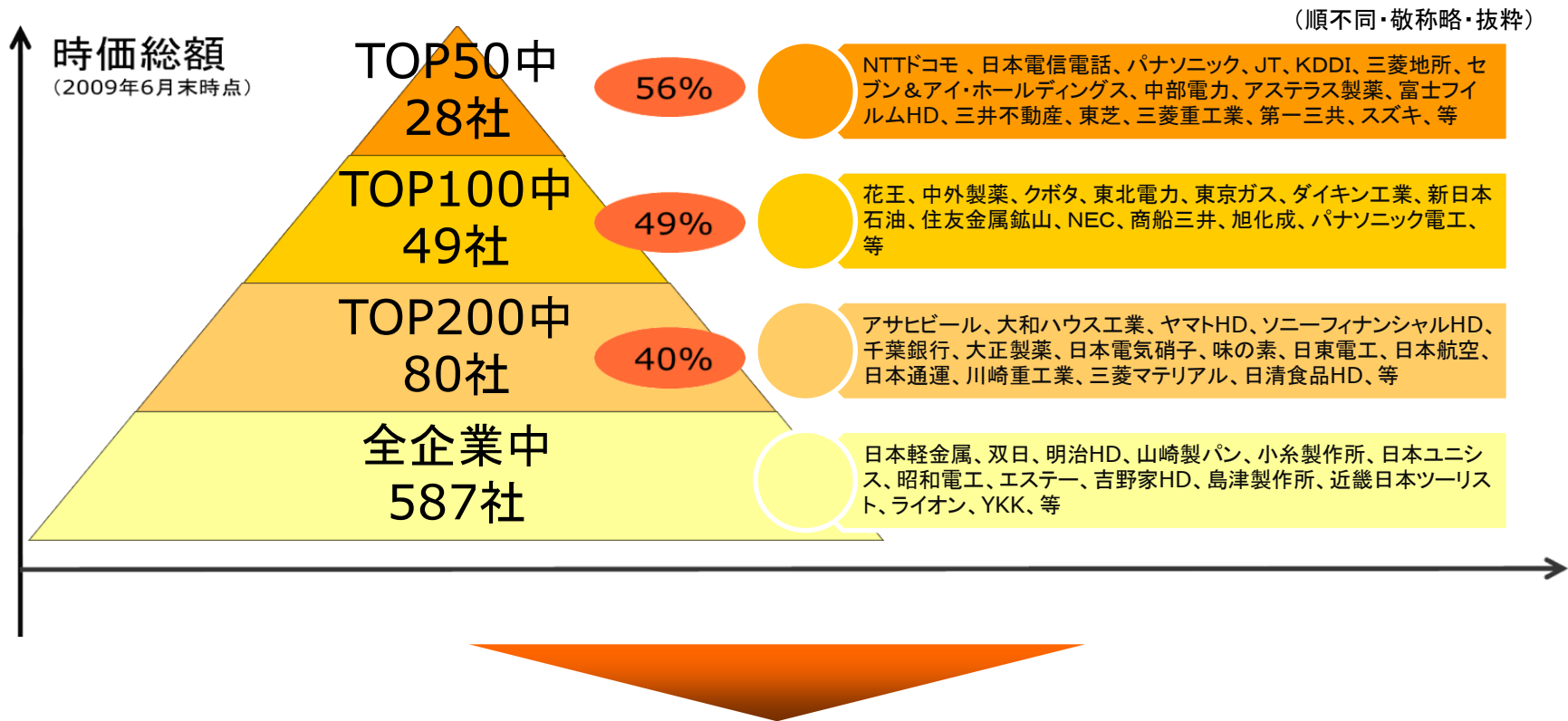
2005年、MS EXCELを活かしたオンライン情報収集・活用システムを開発

2007年、財務と管理の統合力を強化したバージョン9.0をリリース

2009年、国際化対応等、最新バージョン9.1をリリース



# お客様の概要



## 大規模グループ企業に対し、より高い市場シェア

- I. 2009年(平成21年)6月期 本決算概要
- II. ディーバの競争優位性
- III. **成長戦略**

# 経営環境の変化と対応

## 経営環境の変化

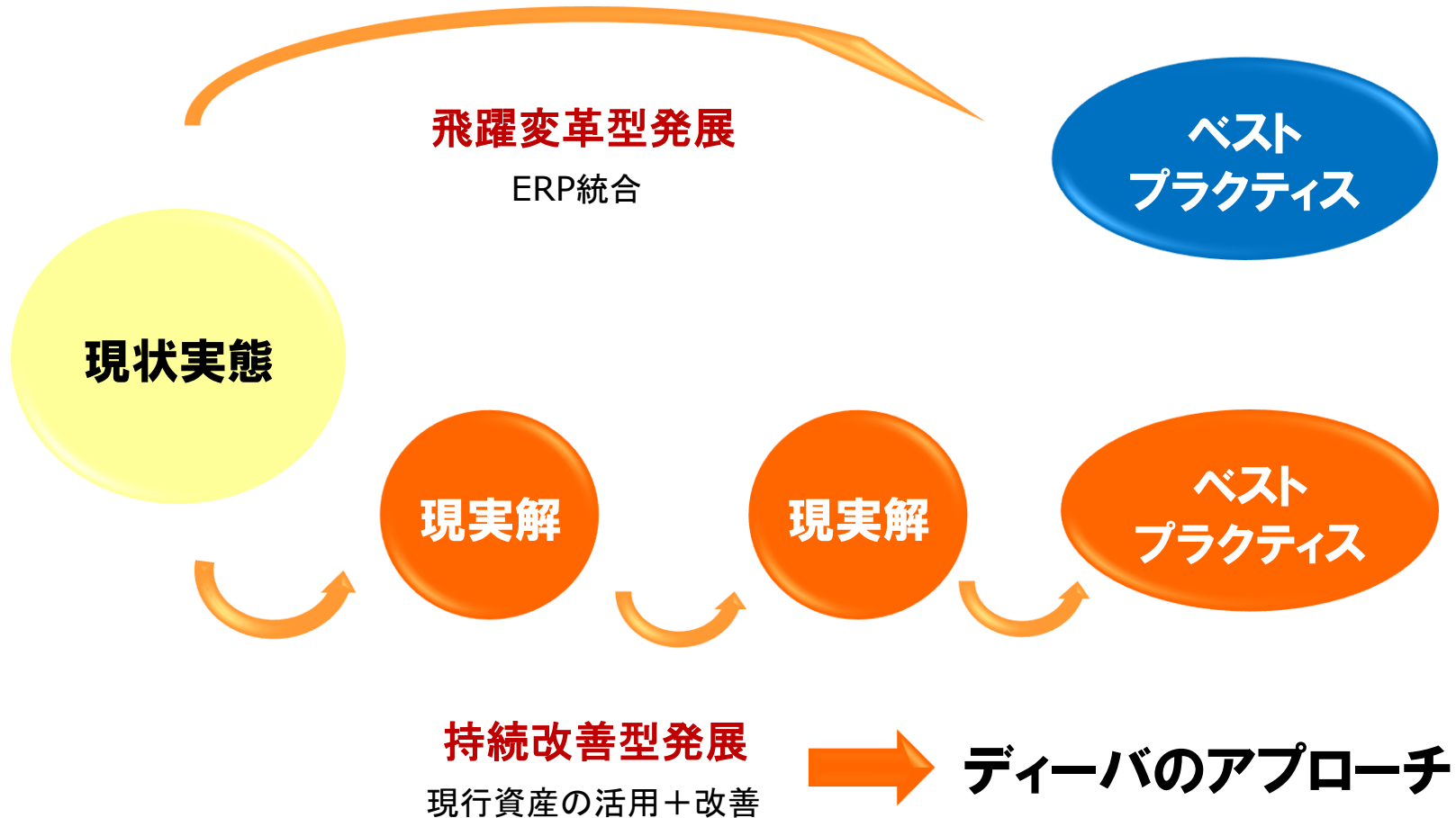
- ①企業の大型IT投資の見直し
- ②経営情報活用ニーズの高まり
- ③IFRS(国際会計基準)  
アドプションへの動き

## ディーバの対応

- ①ROIの高い「現実解」の提供
- ②連結経営ソリューションの提供
- ③IFRS関連サービス  
拡充による市場開拓

# ① ROIの高い「現実解」の提供

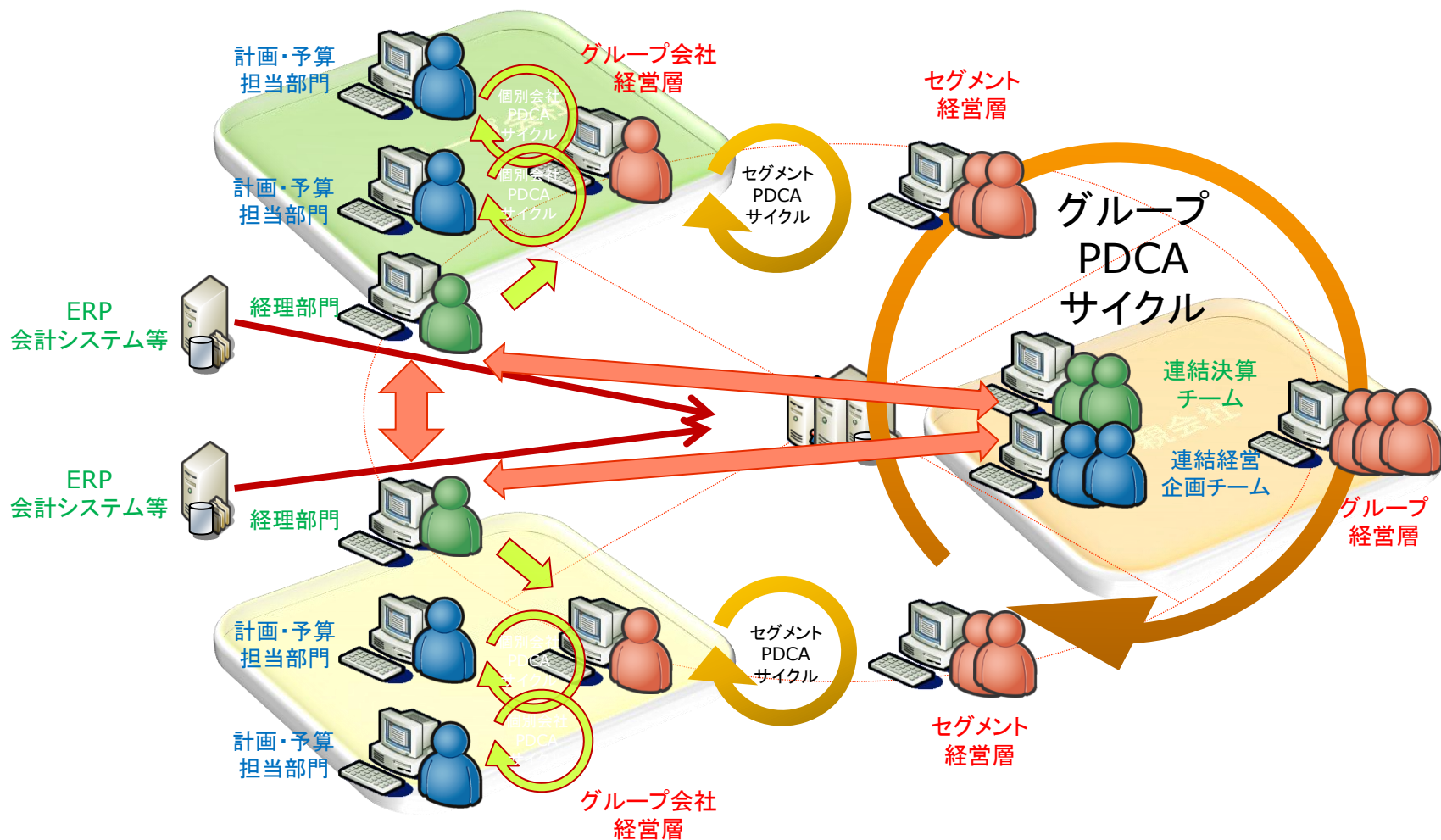
- お客様の現行資産を活用した「現実解」を提供し、段階的发展に貢献





## ② 連結経営ソリューションの提供

### □ 意志決定のための経営情報活用ソリューション概念図



### ③ IFRS関連サービス拡充による市場開拓

- IFRSの適用判断にあわせ製品開発対応
- 会計制度対応、連結経営強化の両市場でIFRS関連サービスを拡充

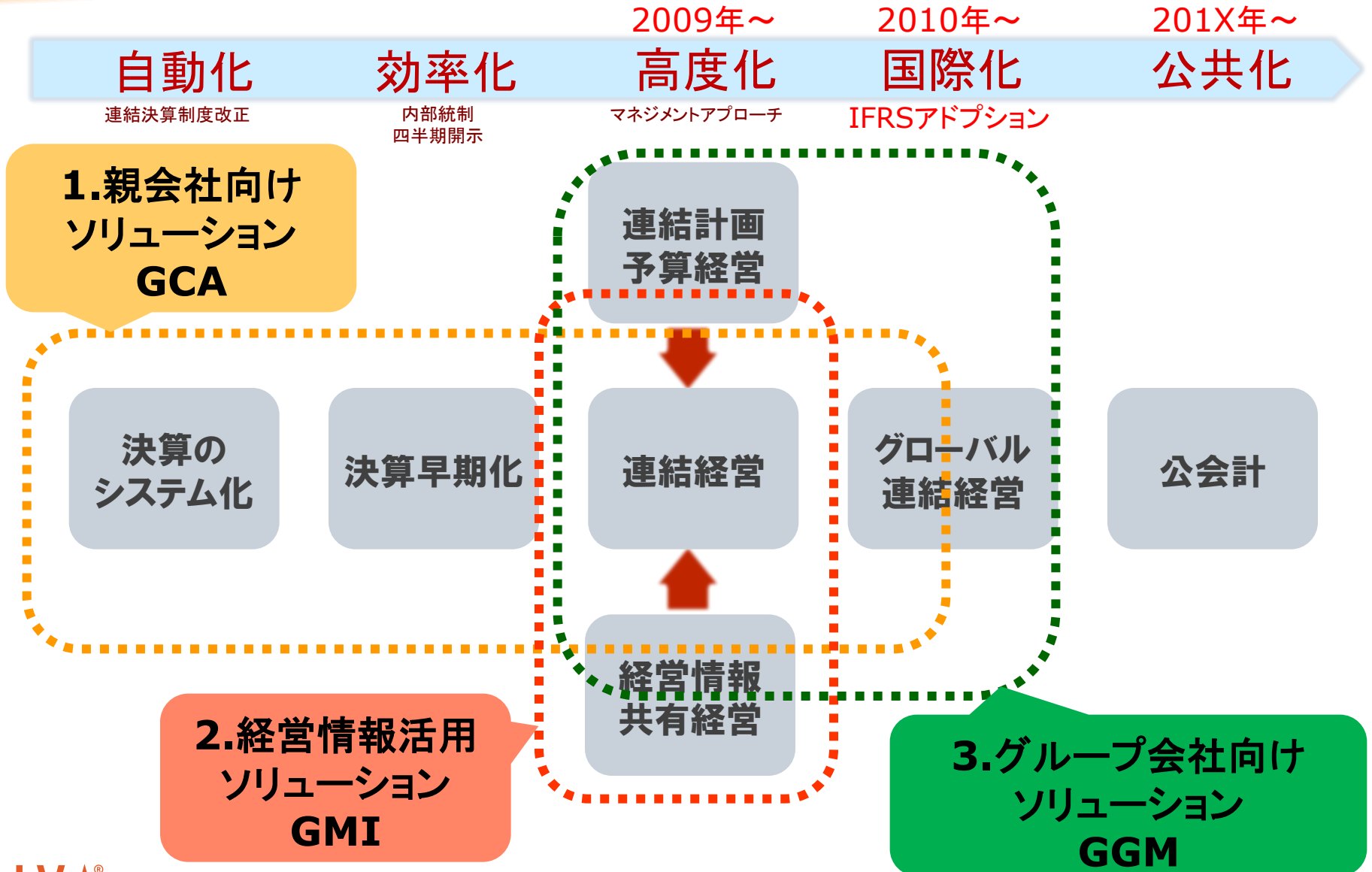
#### IFRS対応製品開発ロードマップ(予定)

DIVA

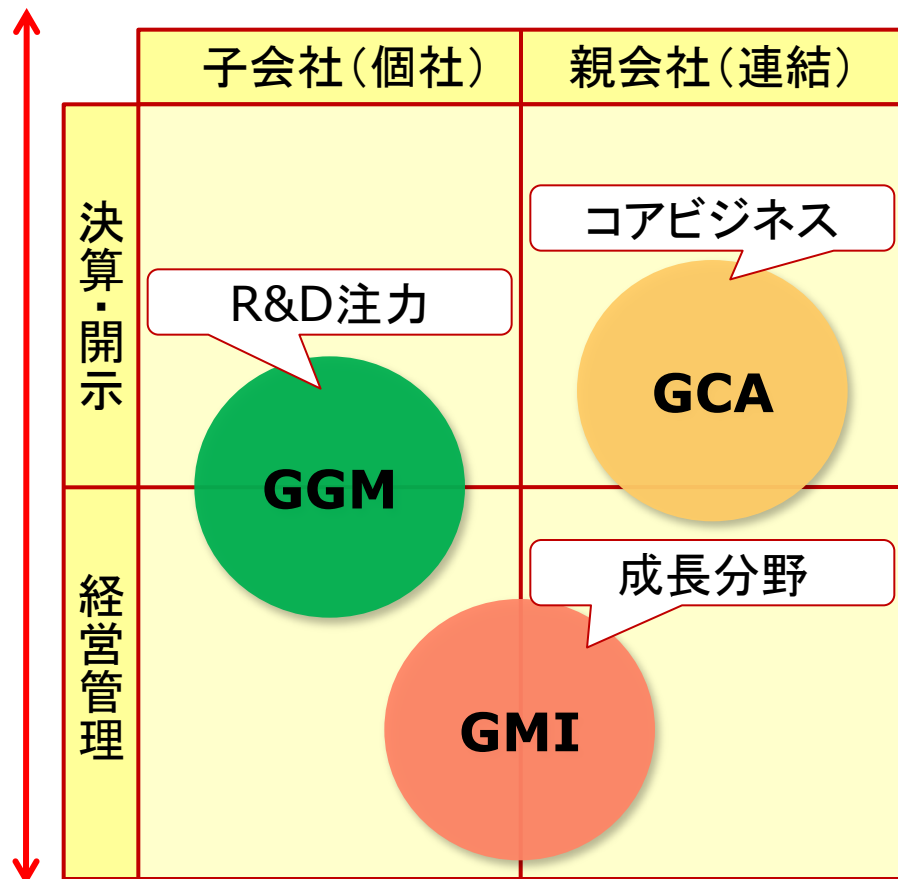
CY	製品	日本基準	SEC基準
2009	コンバージェンス版リリース ※企業結合会計・マネジメントアプローチに対応		
2010	トライアル版リリース ※IFRSの表示部分を中心に先行対応	制度改正	
2011	アドプション版リリース ※SEC基準のIFRS強制適用に対応		(強制適用判断)
2012		(強制適用判断) ※一斉適用or段階適用も判断	比較前々期
2013		(3年準備期間)	比較前期
2014	※IFRSの制度改正及びSEC基準のお客様のご意見等を反映し、日本基準のお客様のIFRS強制適用に向けた機能強化を順次行います。	比較前期	大規模会社適用
2015		強制適用 ※最短予測	以降、段階的に適用

2009© DIVA CORPORATION  
All rights reserved.

# 提供ソリューションのロードマップ



# 提供ソリューションの対象顧客・業務



## GCA: 親会社向けソリューション

連結決算の早期化、高度化を推進するコアビジネス。  
 自社製品であるDSを基盤製品として、プロダクトベースの  
 コンサルティングサービスの提供を行う。

## GMI: 経営情報活用ソリューション

連結経営へのチェンジマネジメントを推進するサービス。  
 自社製品のみならず、他社製品との組み合わせによる  
 ソリューションを提供。

## GGM: グループ会社向けソリューション

グループ会社のグローバル経営管理に貢献する領域。  
 新自社開発製品を基盤とし、グローバル展開を前提に  
 FY11にサービスイン。

# 成長戦略実現のための組織改革

**1.事業実行力を高める→ビジネスチーム制の導入**

**経営の分業化推進**

**2.事業開発力を高める→GMI事業立上、GGM事業準備**

**専任組織による新事業の推進**

**3.商品開発力を高める→米国開発拠点、OSS活用**

**商品開発の「C&D」推進**

グローバルニッチな  
ビジネスモデルを構築

プロダクトベースの  
プロフェッショナルサービスを柱とする

事業資産を活用し人財成長に  
貢献する事業を推進する

# 主要經營指標

KPI	項目	指標
業績指標	売上高成長率	前期比20%増
	經常利益率	10%以上
信用指標	顧客継続率	99%以上

GO GLOBAL! 100年企業たる、グローバルベンチャーを実現する

Mission : 経営(情報)の大衆化

グローバル連結経営の発展と普及を通して、事業活動にかかわるすべての人々の意志決定に貢献する。

Vision : 100年企業の創造

世界中の衆知を集め、グローバルベンチャーとして持続発展する、プロフェッショナルのための理想企業を創造する。

Values : OPEN VALUE STRETCH

性善を信じ、対等を重んじ、衆知による価値創造活動に集中し、バランスのとれた持続発展を実現する。



DIVA®

## 参考資料

- 連結会計業務の流れと DivaSystem9 製品群
- 用語集
- 会社概要
- お問い合わせ先

# 連結会計業務の流れとDivaSystem 9 製品群



子会社決算データの確定  
子会社が存在する国の  
会計・税制基準に沿った  
決算データの確定

個別会計システム

決算データの収集・チェック  
子会社のデータをオンライン、  
オフライン、あるいはダイレクト  
連携にて収集

データ収集  
ソリューション

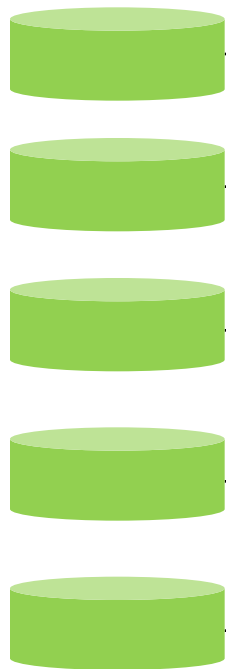
連結財務諸表の作成  
連結仕訳生成などの連結会計  
特有の処理を自動的に実施、  
連結財務諸表を作成

連結処理  
ソリューション

連結結果の開示・共有  
法定開示データの出力、  
ならびにグループ企業内での  
情報共有を促進

データ出力  
ソリューション

子会社



他システムからの情報収集

**DIVA ExcelAdapter**  
-Excelのデータをそのまま  
DivaSystemへ取り込むた  
めのオフライン入カツール

**DivaSystem IGA**  
-グループ会社からのデータ  
をリアルタイムオンラインで  
収拾するためのモジュール

**DivaSystem EIGS**  
-Excelを利用して、グループ  
内でのデータ収集を双方向  
オンラインで実現するモ  
ジュール

**DivaSystem Dx3**  
-ERPや個別会計システムか  
らDivaSystemへデータ連  
携させるための汎用インター  
フェイス・モジュール



**DivaSystem LCA**  
-DivaSystemの基本モジュール

**DivaSystem LCA Plus**  
-注記情報や附属情報の他、お  
客様ごとに異なる管理情報を  
収集管理することを可能にする  
モジュール

**DivaSystem SBU**  
-カンパニー単位や事業部単位な  
どのセグメント別に連結財務諸  
表を作成するモジュール

**DivaReporter**  
-基本出力機能として250種  
類以上のレポートを用意。

**DivaSystem Formula-X**  
-DivaSystem上のデータ  
をExcel上へ出力するレポー  
ティングモジュール

**DIVA DataTranScripter**  
-Formula-Xとの連携により、  
DivaSystem内のデータを  
WordやPowerPointへ自動  
連携させる各種報告資料作  
成支援ツール

**DivaSystem GIR**  
-親会社で処理した  
DivaSystemの情報を、  
IGAを利用して各グループ会  
社で参照するモジュール

親会社

## □ ERP

Enterprise Resource Planning の略。企業全体を経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念のこと。「企業資源計画」と訳される。これを実現するための統合型(業務横断型)ソフトウェアを「ERPパッケージ」と呼ぶ。

## □ GL

General Ledger (総勘定元帳)の略。個別会計システムを指すことも多い。

## □ IASB

International Accounting Standards Board (国際会計基準審議会)の略。**IFRS**の策定を目的とする民間の専門家組織のこと。前身となる組織が1970年代に日米欧の会計団体により創設され、2001年に現在の組織形態となった。本部はイギリスのロンドンにある。

## □ IFRS

International Financial Reporting Standards の略。**IASB**が作成する国際会計基準。近年、欧州を中心に急速な広がりを見せており、全面採用もしくは一部採用を決定した国は100カ国を超える。

## □ OSS

Open Source Software (オープンソースソフトウェア)の略。ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを、インターネットなどを通じて無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行なえるようにすること。また、そのようなソフトウェア。ソースコードがあれば、そのソフトウェアの類似品を作成したり、そのソフトウェアで利用されている技術を転用することが容易に可能なため、企業などでは自社の開発したソフトウェアのソースコードは極秘とし、他社に供与するときにはライセンス料を取ることが多い。

## □ PDCA

Plan, Do, Check Action の頭文字をとったもの。事業活動における「計画(Plan)」、「実行(Do)」、「確認(Check)」、「改善(Action)」という事業活動のサイクルを指す。

## □ 会計基準のアドプション (adoption)

**IFRS**を自国の会計基準として全面採用(adopt)する取り組み。**IFRS**の策定団体である**IASB**が主体となり、積極的に推進している。重要な差異をなくし、異なる基準を収斂させるというコンバージェンスのアプローチとは大きく異なる。

## □ 会計基準のコンバージェンス (convergence)

各国・地域によって異なる会計基準をより統一的なものに収斂(converge)させる取り組み。対象となる主な会計基準は**IFRS**、**US GAAP**、日本基準の3つ。

## □ マネジメントアプローチ

経営の意思決定に用いられる情報を開示する、という会計情報の開示手法。セグメント情報の適切な開示が中心となり、**IFRS**や**US GAAP**で採用されている。平成20年3月には、日本でも会計基準の国際的なコンバージェンスの観点から導入されることとなり、平成22年4月1日以降開始する連結会計年度(または事業年度)から適用が開始される。

# 会社概要

社名 : 株式会社ディーバ (銘柄コード:3836 大阪証券取引所 ヘラクレス市場 2007年2月8日上場)

設立 : 1997年5月26日

代表者 : 代表取締役社長 森川 徹治

メンバー : 218名 (2009年6月30日現在)

資本金 : 2億8,040万円 (2009年6月30日現在)

主要業務 : 自社開発ソフトウェアを軸としたグローバル連結経営ソリューションの提供

所在地 : 東京本社(蒲田)、大阪オフィス(堂島)、名古屋オフィス(名古屋駅前)、米国子会社(サンフランシスコ)

## <IR関連お問合せ先>

電話：03-5480-7600

Mail：[IR@diva.co.jp](mailto:IR@diva.co.jp)

担当：遠藤、守田